

ケア情報学研究所 活動実績報告書

2021.12～2022.9

所長 桐山伸也

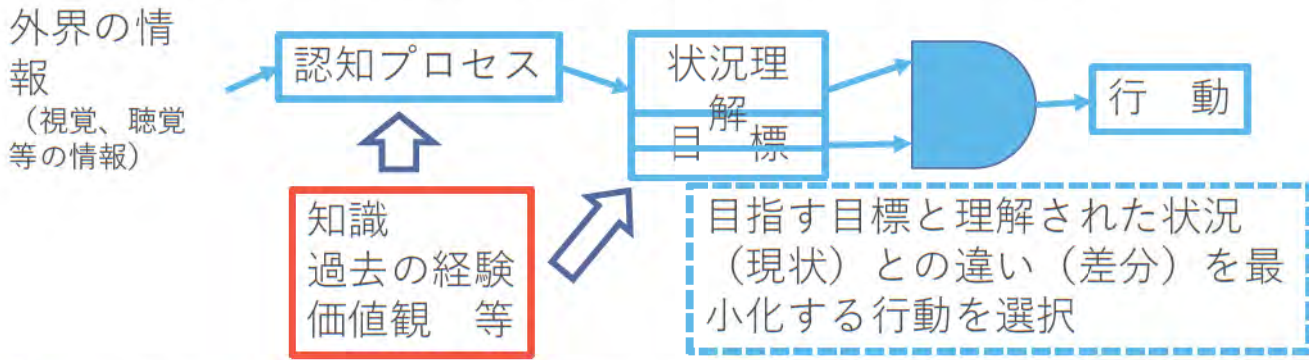
1

3年目の成果概略

- 人工知能理論に基づく生活困窮者支援のための自治体向け研修プログラム開発実践評価
- 加賀市の多世代市民が創る「みんなの成育コミュニティ」構想
- 専門職及び市民向け痛みケアリング教育プログラム実践評価
- 歩行と姿勢の状態改善のための健康増進運動プログラム開発
- 状態像と介入効果の可視化システムの開発
- 事例創作オンライン協調学習における認知症見立て知適用過程の分析
- 認知症ケアインタラクションスキルのコーチング学習環境構築

2

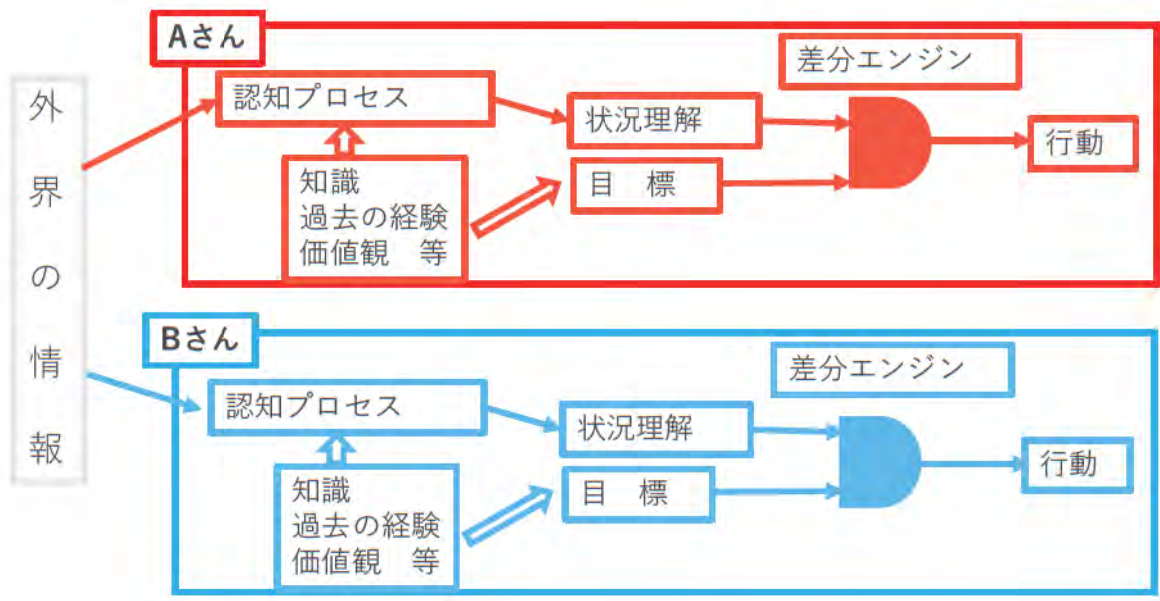
人間の行動を情報処理プロセスとしてみると



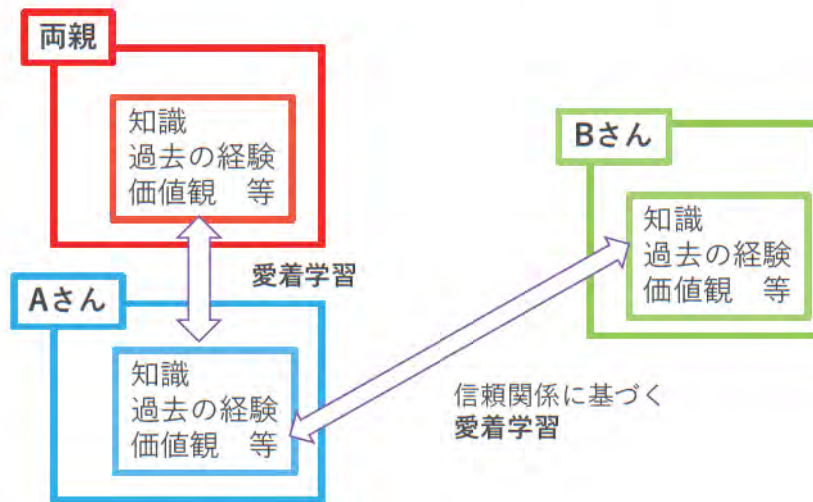
- 電車のシルバーシートに座っている。
- 自分より年長で足が弱い人が乗ってきた。 ⇒ 認知プロセス
- 自分は席を立ち、その人に席を譲る。 ⇒ 差分最小化のための行動

「知識、過去の経験、価値観等」が、プロセスのなかで重要な役割

プロセスは個人ごとに働くが、状況理解、行動は社会的に共通
「知識、過去の経験、価値観等」の社会的共有化が不可欠



「愛着学習」を通して、「知識、過去の経験、価値観等」の社会的共有化が進む
社会一般の人々が共有する「知識、過去の経験、価値観等」が「COMMON SENSE」

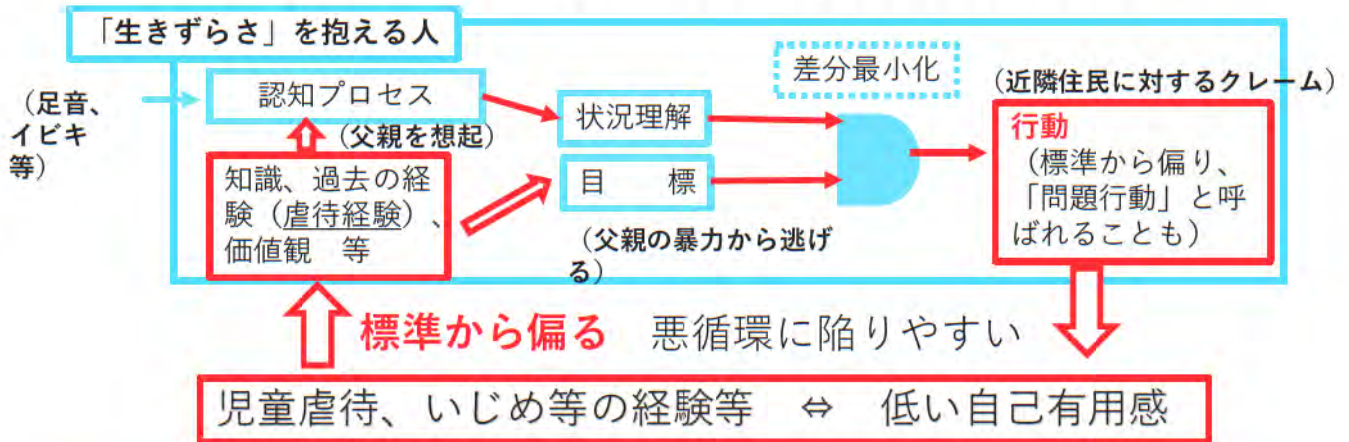


生活困窮者の問題行動とCOMMON SENSE

- 生活困窮者支援の現場などでは、様々な**問題行動**を起こす「困った人」と思われる人たちを支援
- **問題行動**の背景には、
 - 愛着学習が上手くいかず、社会一般の人々が共有するCOMMON SENSEを学べなかったことがあるのではないか。
- M. ミンスキーは、愛着学習をつうじて社会的価値観（COMMON SENSE）を学んでいることを指摘。
- 逆に、児童虐待等で適切な愛着関係が構築できずに成長した子どもは社会価値観を共有できていない。
- 価値観の共有ができないと、社会的に容認されない「問題行動」

「生きづらさ」の背景には、偏った「知識、過去の経験、価値観等」

「生きづらさ」を抱える人＝児童虐待、いじめ等を経験している例が少ない

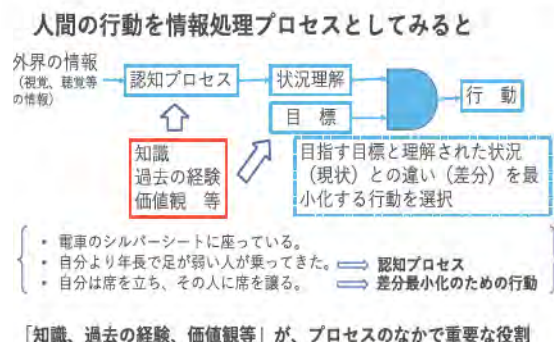


➡ 生育歴の確認し、背景にある課題を考えることが必要

心的情報処理モデルを活用した研修の設計

心的情報処理モデル

- 直面している課題に対して、どのような情報をどのように処理しているのか。その結果、どのような行動をとっているのか。こうした事柄を推測する枠組み。



研修の設計とその効果への期待

- 事例をもとに、どのような心的情報処理プロセスが働いているかを考える
⇒ 個人の価値観にとらわれない客観的な立場からの推測
- グループワーク ⇒ 「枠組み」への当てはめ方の多様性
- 当事者の心の中を推測 ⇒ 当事者視点でのアプローチ

養育者や信頼関係がある者との愛着関係によって得られるもの

・安心・安全な「場所」

→ 愛着関係が形成されない

- ・ 安心できる「場所」がない
- ・ 常に不安、恐怖に苛まれている

→ 子ども食堂、子どもの学習支援の場

・一貫性のある社会的価値観を受け継ぐ

→ 愛着関係が形成されない

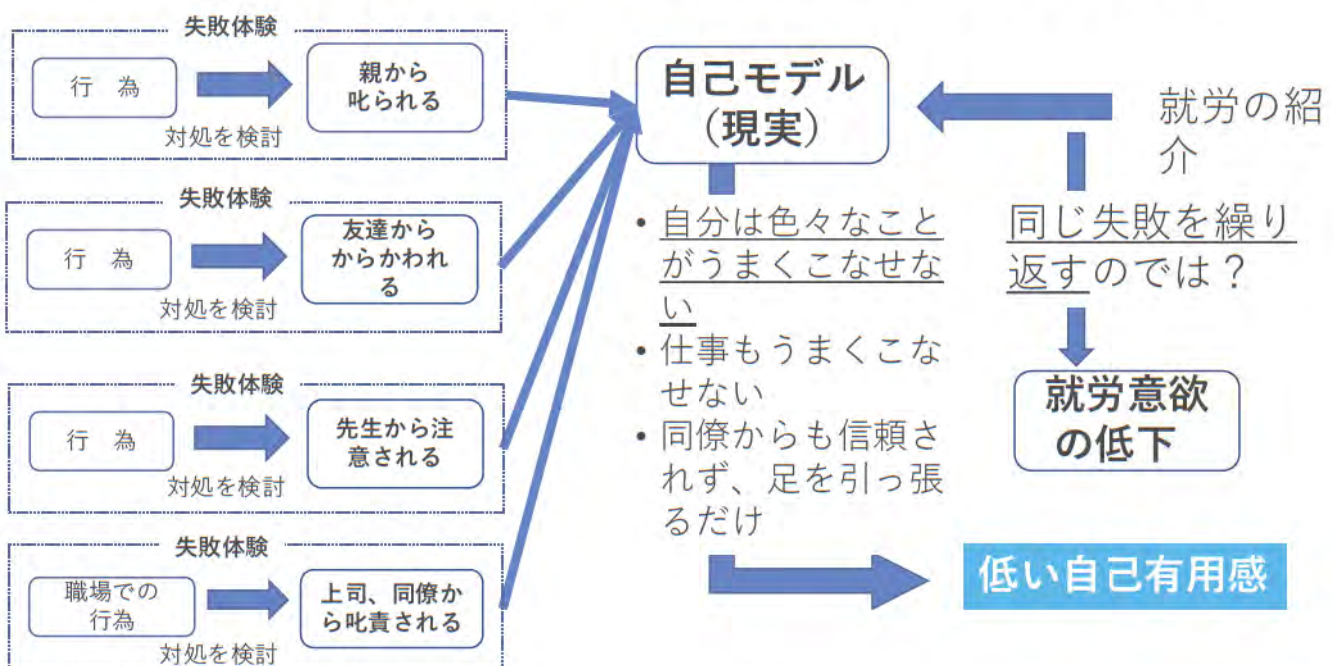
- ・ 社会的に共有される価値観・常識が習得できな
- ・ 社会が求める行動を行う理由が理解できず、意欲がわからない
- ・ 日常生活で必要とされる基本的なスキルが習得できない

・社会的価値観に基づく賞賛や叱責を通じた「自己」の確立

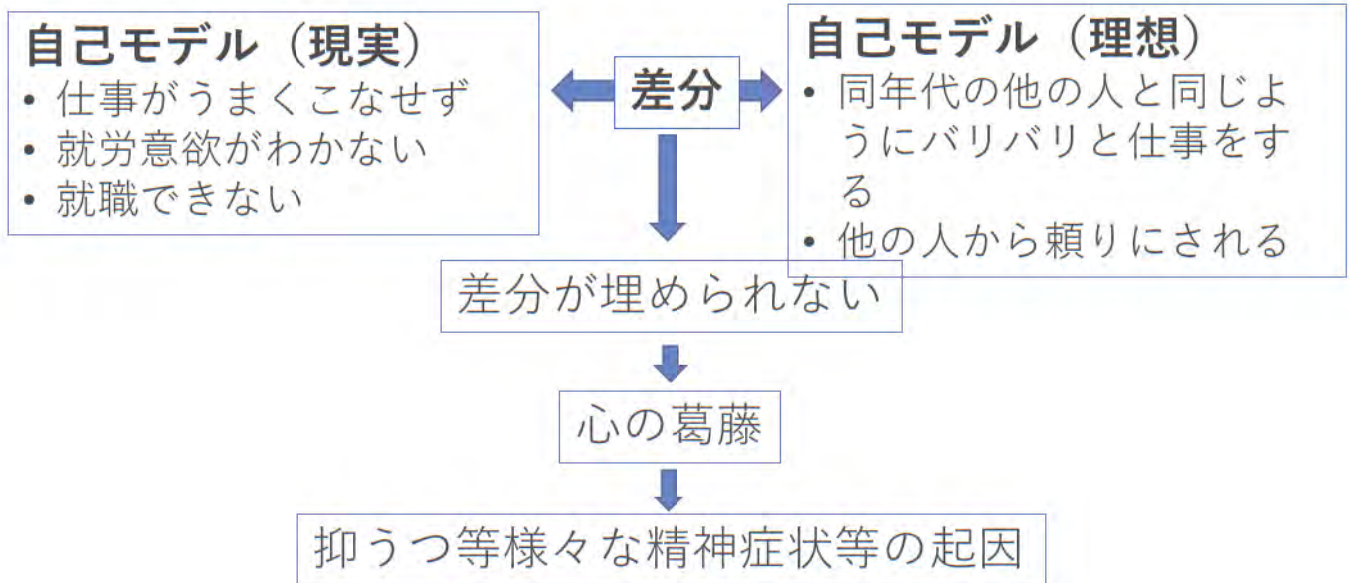
→ 愛着関係が形成されない

- ・ 「誇り」や「恥」という感情が未成熟
- ・ 自分がどのような存在で、何をしたいかが分からない

就労意欲を喪失している生活困窮者に対する就労支援の例



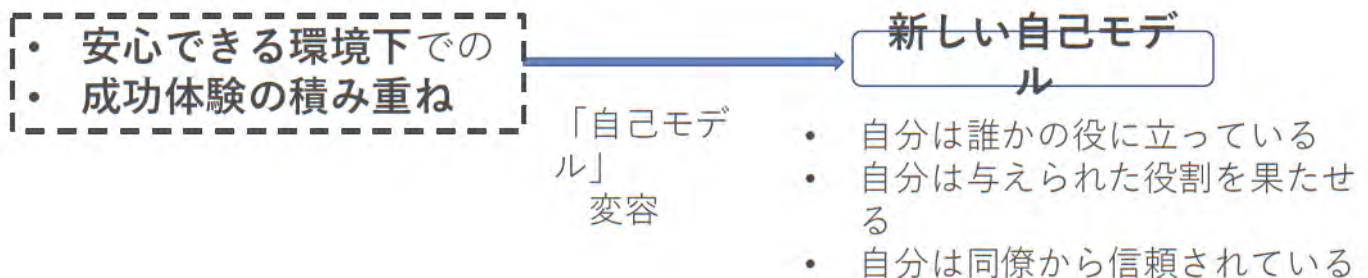
自己有用感の低い人が抱える心の葛藤



行動変容に向けた取組み

ー 自己有用感をどうした高められるか

- 行動の変容（就労意欲の向上）には、**失敗の経験に基づいた「自己モデル」の変容**が必要。
- 自己モデルの変容には、**成功経験の積み重ねによる新しい「自己モデル」の形成**が必要。



研修結果の分析

• 第1日目の研修の評価 感想

職種	良かった	良くなかった	どちらでもない	無回答	合計	参加者
専門職	12	0	0	0	12	13
事務職	10	0	2	0	12	13
合計	22	0	2	0	24	26

内容理解

職種	理解できた	難しかった	どちらでもない	無回答	合計	参加者
専門職	10	2	0	0	12	13
事務職	11	0	1	0	12	13
合計	21	2	1	0	24	26

• 第2日目の研修の評価

感想

職種	良かった	良くなかった	どちらでもない	無回答	合計	参加者
専門職	8	0	3	0	11	12
事務職	12	0	0	0	12	12
合計	20	0	3	0	23	24

内容理解

職種	理解できた	難しかった	どちらでもない	無回答	合計	参加者
専門職	6	3	1	0	10	12
事務職	11	1	1	0	13	12
合計	17	4	2	0	23	24

注：事務職1名が「理解できた」と「どちらでもない」の複数の回答を選択している

全体的な評価

- 福祉的支援のスキルアップのために「心的情報処理モデル」を活用することが効果的
- 相談者などの育ってきた環境、背景を考える姿勢を意識する職員が増えたことは、重要
 - ▶ 相談者にとっては、自分のことを考え、理解しようとしてくれていると感じるのではないだろうか。
 - ▶ 職員と相談者とのインタラクションが良い方向に変容し、相互の信頼関係の構築がより容易に
 - ▶ 相談者の姿勢も変容させ、好循環をもたらす可能性

加賀市の多世代の市民がつくる「みんなの成育コミュニティ」

◆多世代の市民が、対面で集まりやすい、面白い場を作る

観光客などの訪問者との子育て交流が気軽に安全にできる場とイベント



◆デジタルの成育コミュニティー

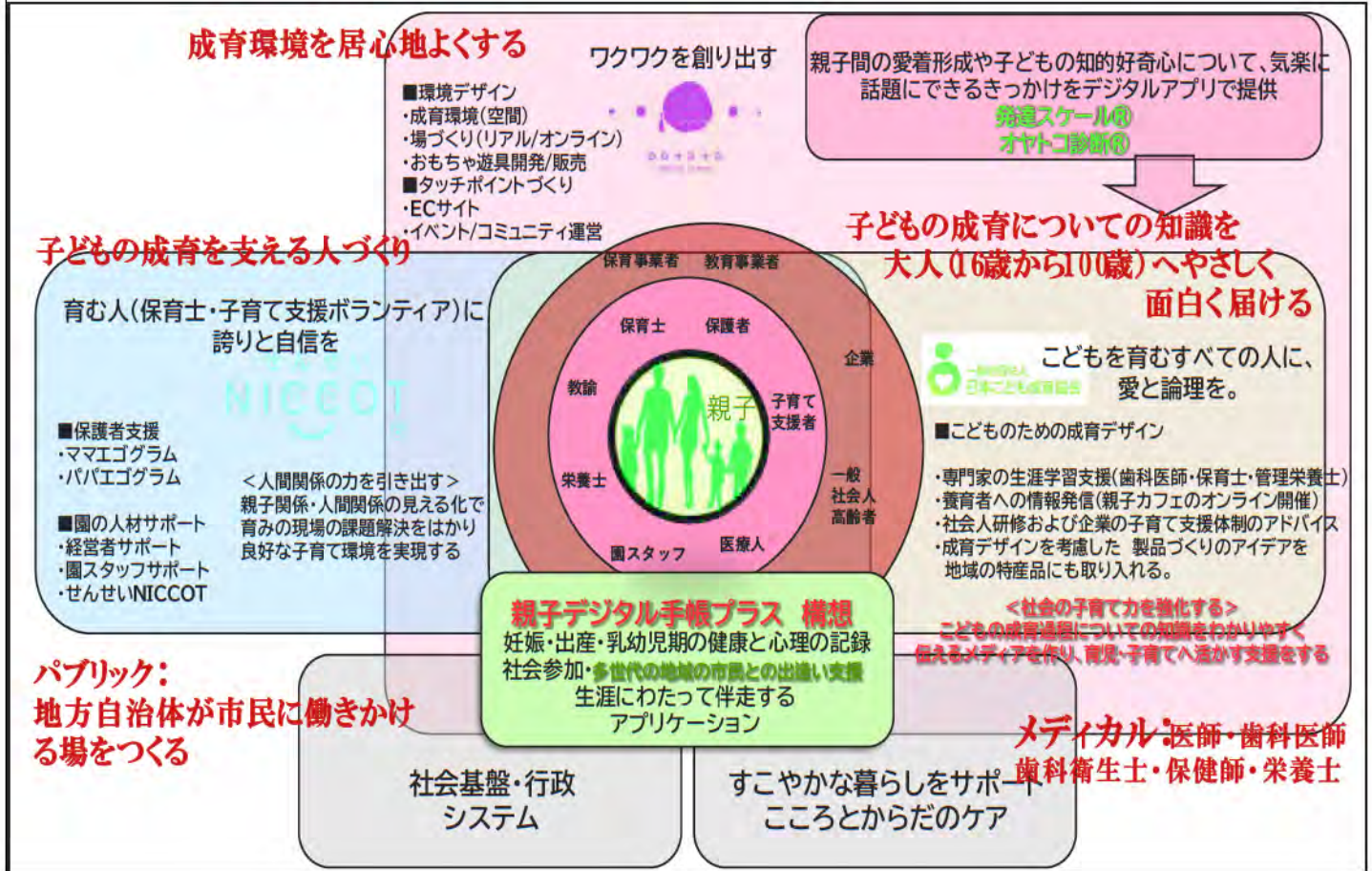
国内外の有識者や子育て家庭とオンラインで繋いで、子どもの成育過程を語り合う ヴァーチャル広場を設けて、家庭の中にいながらにして地域社会と外の社会につながる



◆多世代の友をつなげる成育コミュニティー

身近に子どもがいない高齢者が、その趣味や知識によって、わかり合える子どもと出逢うコミュニティー





成育過程にある子どもの成長と発達についての知識の普及と、記録の一元化による効果的な支援のシステムを作ることの重要性

【成育基本法】 成育過程にある者 及びその保護者並びに妊産婦に対し 必要な成育医療等を切れ目なく提供するための施策の総合的な推進に関する法律（平成三十年法律第百四号）

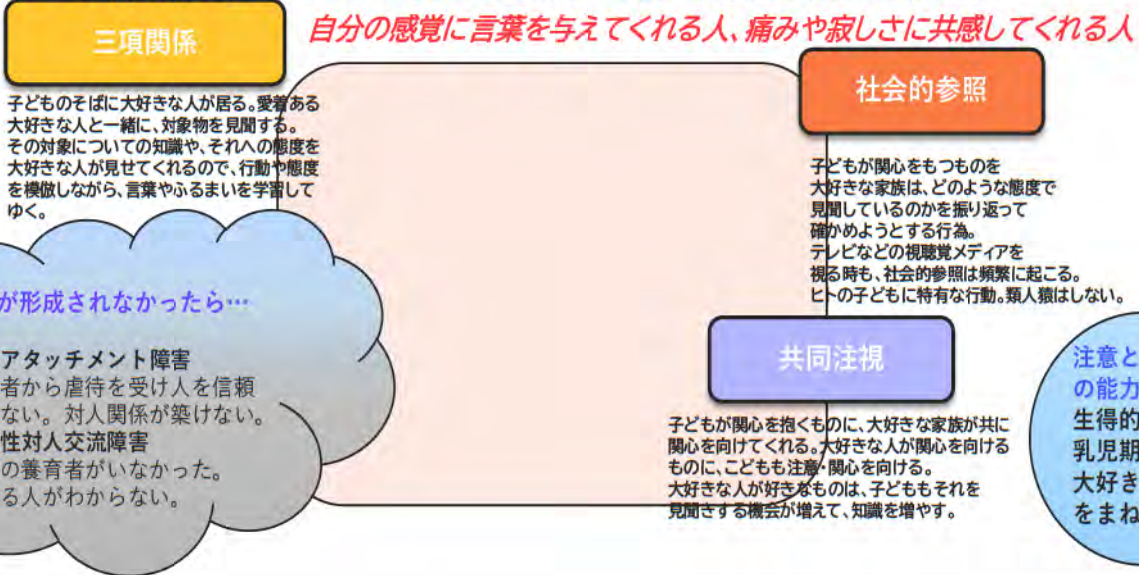
第十四条
 国及び地方公共団体は、国民が成育過程における心身の健康に関する知識並びに妊娠、出産及び育児並びにそれらを通じた**成育過程にある者との科学的知見に基づく愛着の形成に関する知識を持つ**とともに、それらの知識を活用して成育過程にある者及び妊産婦の心身の健康の保持及び増進等に向けた取組が行われることを促進するため、**成育過程にある者及び妊産婦の心身の健康等に関する教育（食育を含む）並びに広報活動等を通じた当該取組に関する普及啓発その他の必要な施策を講ずるものとする。**（記録の収集等に関する体制の整備等）

第十五条
 国及び地方公共団体は、成育過程にある者の心身の健やかな成育に資するため、**成育医療等に係る個人情報の特性に配慮しつつ、成育過程にある者に対する予防接種、乳幼児に対する健康診査及び学校における健康診断に関する記録の収集及び管理並びにその情報の活用等に関する体制の整備、当該情報に係るデータベースの整備その他の必要な施策を講ずるものとする。**

[図1] 愛着形成は発達の基礎

大好きな人の存在と情愛《愛着形成》は 発達の基礎 Attachment

■ 大好きな人のふるまいを見ながら、周りの物や世界や自分を理解する



愛着が形成されなかったら...

反応性アタッチメント障害
養育者から虐待を受け人を信頼できない。対人関係が築けない。

脱抑制性対人交流障害
特定の養育者がいなかった。頼れる人がわからない。

注意と模倣の能力は生得的。乳児期から大好きな人をまねる

[図2] 発達スケールとオヤトコ診断



【図3】オヤトコ診断「おはなしだいすきすいりめいじん領域」向け遊びレシピ

【A×B:おはなし・すいり】
くらべてならべる！（系列化）

<あそびの解説>

3歳になると「長い・短い」や「おおきい・ちいさい」がわかりはじめます。大きさや長さを比べて並べる論理的な照らし合わせをしながら順番に並べるあそびです。比較するものにセリフを与えながら大きい順、小さい順を一緒に照らし合わせをしてみましょう。

<準備するもの>

1) 大きさの違うぬいぐるみやお人形 3体以上、または、長さの違う棒やストロー

<観察・動きがけポイント>

- ① 大きさや長さの違う3つのもの(できれば同じ形のもので大小のあるもの)を使って比べっこをすることで、大きい順や小さい順で並ぶ系列化を手と口を使いながら理解します。
- ② 比べるものが4つ以上になると大きい(長い)グループと小さい(短い)グループと二分することもあります。その時には一緒に比べながらひとつひとつ並べましょう。

正解することを求めずに「比べながら並べる」という手続きと、セリフを使いながら並べる楽しさを 伝えましょう。


③ 推薦図書「3びきのくま」



医療・介護従事者向け研修会の開催

- ・ 加賀市の医療者向けの研修会を実施した (Zoomにて開催)
- ・ 慢性疼痛患者に対して愛知医科大学病院痛みセンターで取り組んでいる「慢性痛教室」について情報共有し、加賀市で実施可能なプログラムの構築へ向けて議論した。

静岡大学・加賀市・みんなの認知症情報学会・愛知医科大学 共同研究 研修会

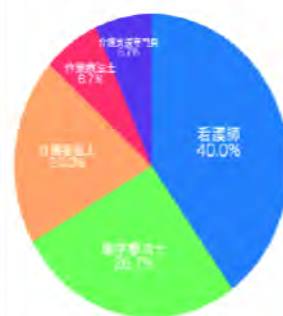


慢性痛患者に対するピアサポートプログラム (慢性痛教室) の取り組みを教員間で

井上 雅之
愛知医科大学 運動療育センター / 学際的痛みセンター
(理学療法士 健康運動指導士)

令和3年3月11日

参加者アンケート



利用者が痛みで困っているときに慢性痛教室のようなプログラムがあれば紹介したいと思いますか?

地域高齢住民向け痛み教育プログラムの開催

- ・加賀市の地域高齢住民向けの、「痛みの座学」と「ストレッチ等の軽度運動プログラム」を組み合わせた痛み教育プログラムを実施した。
- ・参加者（地域おたっしゅサークル参加の43名）

痛みの教育

からだの痛みと運動



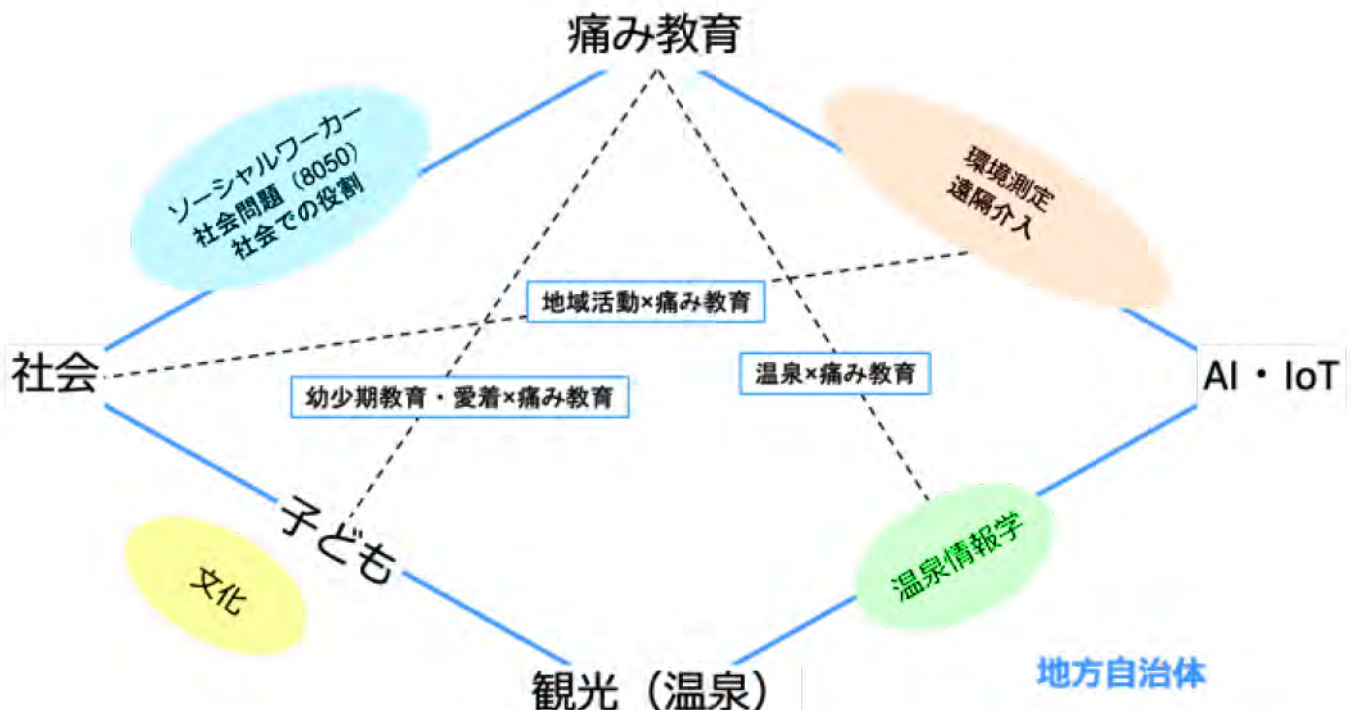
近年、慢性的な痛みを改善するには「痛みの強さに関わらず、痛みについて正しい知識を学び、そして身体を動かしていくこと」が有用であることがわかってきました。

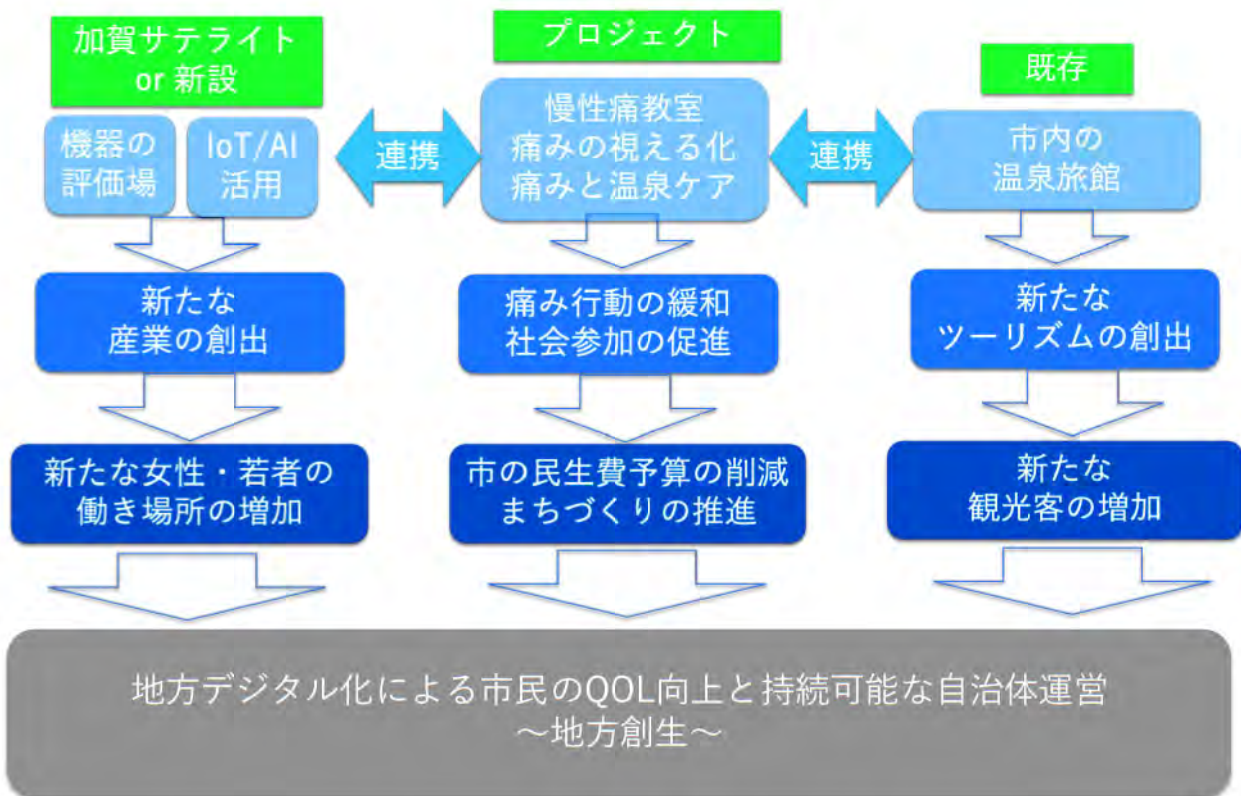
本教室は、痛みの知識や痛みと運動の関係を学習・理解し、その知識に基づいた運動プログラムを行います。

遠隔でのストレッチ運動指導の様子



「痛みケアリング」クインテット構想





加賀市民の健康増進を「歩行と姿勢」の啓発から

■ 歩行と姿勢は年少期からの介入が重要

概要： 幼少年期の歩行や姿勢が、体力的な自信、肯定感、心のあり方、精神力にまで影響を及ぼします。骨粗鬆症に将来ならないためにも、骨を強くする大切な時間である幼少年期の身体の使い方を意識して過ごす事が、とても大切です。

第1回 会員限定 オンライン学び交流会

幼少年期から大切に
する姿勢と歩行

藤田憲一郎さん

2021.7.5 月 参加費 無料

18:30~20:00

■ 健康市民育成のための「歩行と姿勢の状態像理解と運動プログラム」の開発

■ ケア情研*み認情*加賀市のプロジェクトチーム



■ 加賀サテライトで参加市民の歩行状態のデータ収集とフィードバック